



株式会社フコク(東証プライム:5185)

2025年11月18日

第2四半期決算説明会

2026年3月期

Yes, We Do!

1. 決算のポイント
2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想
3. セグメント別・地域別の状況
4. 資本政策への取り組み
5. 新中期経営計画2026の進捗

1. 決算のポイント

2026年3月期第2四半期実績

売上高は、機能品事業の新製品拡販が好調であった一方、防振事業の受注の伸び悩みや、金属加工事業における採算向上のための事業再編の影響により **微減**

営業利益は、売上高が伸び悩む中で、生産性向上や合理化、変動対応等の取り組みを進めたものの、原材料費や労務費等の上昇分を吸収出来ず **減益**

2026年3月期通期業績予想

下期はより一層の生産工程の合理化、変動対応等の更なる採算改善努力を継続
米国関税措置が当社の事業及び業績に与える影響については、生産性向上や合理化など収益向上につながる活動、経費削減、変動対応等により吸収を図る

売上高 880億円 **営業利益** 50億円 の公表値を据え置く

配当

中間配当は当初計画通り**42.5円**

期末配当は当初計画通り**42.5円**とし、昨年度から**10円増配**して、通期で**85円**を計画

2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

第2四半期業績 概要

(単位：百万円)

	2025年	2026年	前年増減額	前年増減率
	3月期	3月期		
	第2四半期	第2四半期		
	実績	実績		
売上高	44,585	44,372	△ 213	△ 0.5%
営業利益	2,060	1,549	△ 511	△ 24.8%
(売上高対営業利益率)	(4.6%)	(3.5%)	(△1.1pp)	
経常利益	2,221	1,527	△ 694	△ 31.2%
(売上高対経常利益率)	(5.0%)	(3.4%)	(△1.6pp)	
当期純利益	1,542	948	△ 594	△ 38.5%
(売上高対当期純利益率)	(3.5%)	(2.1%)	(△1.4pp)	

※pp=パーセンテージポイント

原材料費や労務費等の上昇分を生産性向上や合理化、変動対応等で吸収しきれず減益

2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

通期業績予想 概要

(単位：百万円)

	2025年 3月期	2026年 3月期	前年増減額	前年増減率
	実績	予想		
売上高	89,657	88,000	△1,657	△ 1.8%
営業利益 (売上高対営業利益率)	4,721 (5.3%)	5,000 (5.7%)	+279 (+0.4pp)	+5.9%
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,569 (5.1%)	5,000 (5.7%)	+431 (+0.6pp)	+9.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,931 (3.3%)	3,500 (4.0%)	+569 (+0.7pp)	+19.4%

※pp=パーセンテージポイント

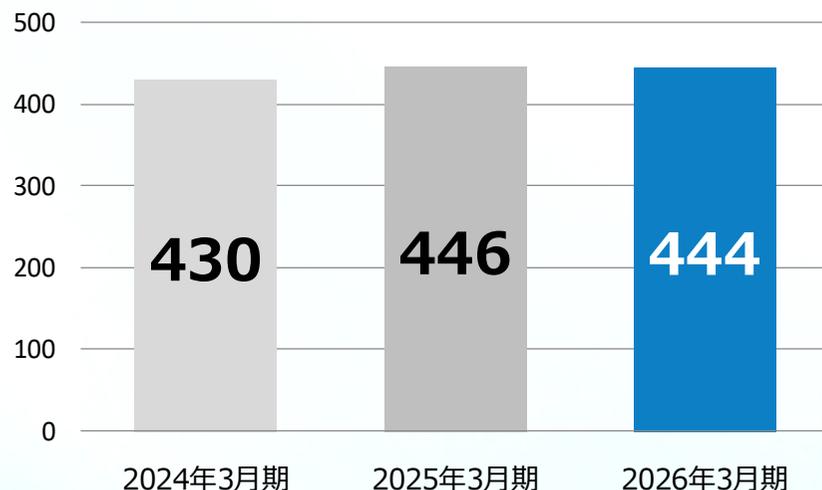
為替影響等により売上微減、変動対応と合理化を進め下期挽回により増益

2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

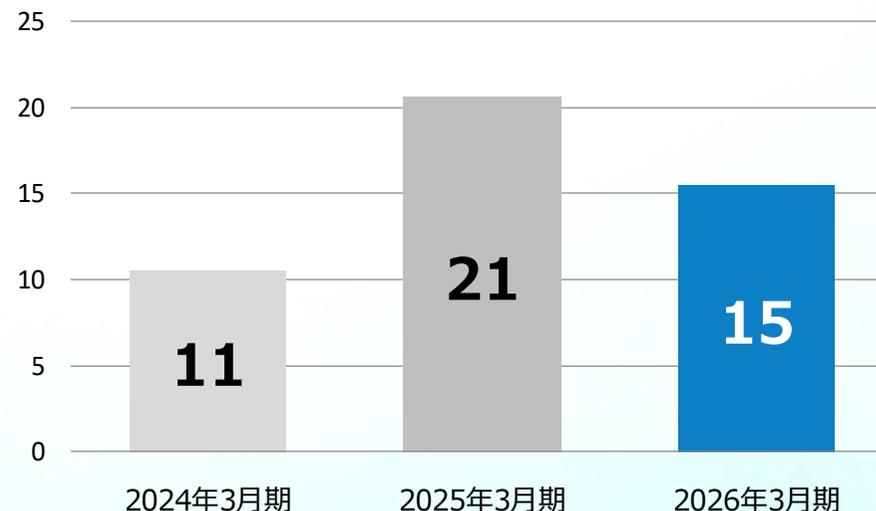
第2四半期実績推移

(単位：億円)

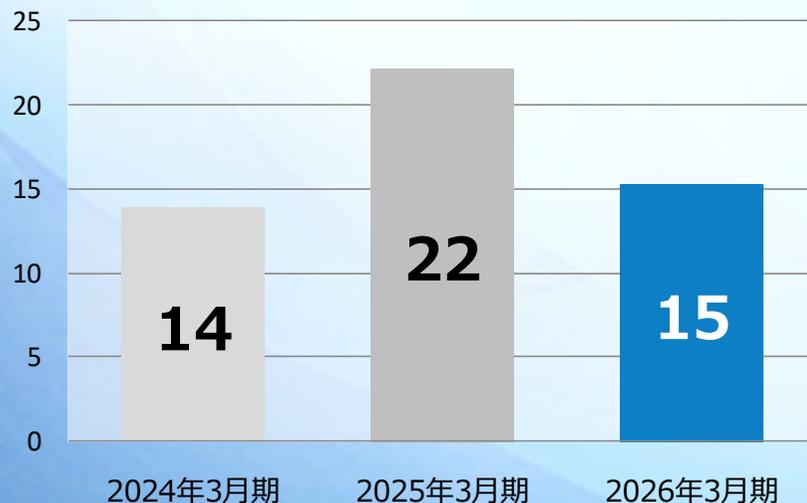
売上高



営業利益



経常利益



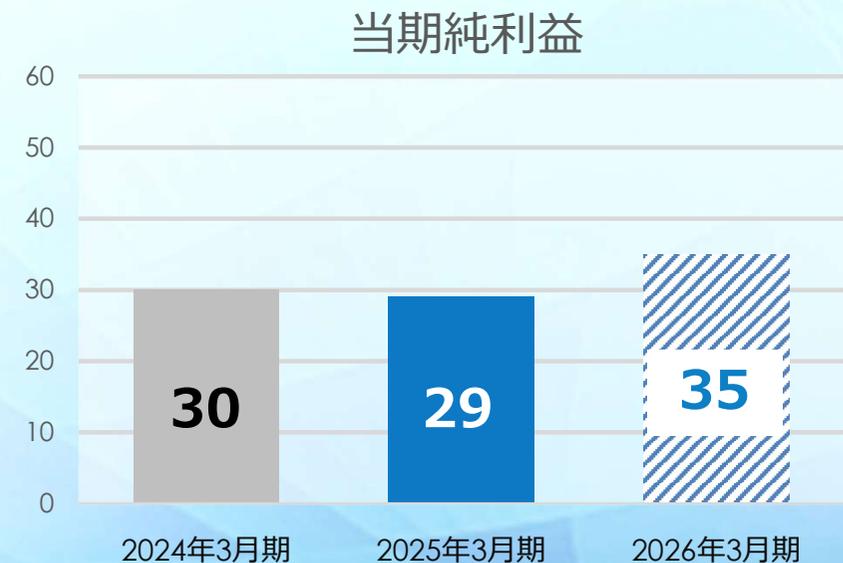
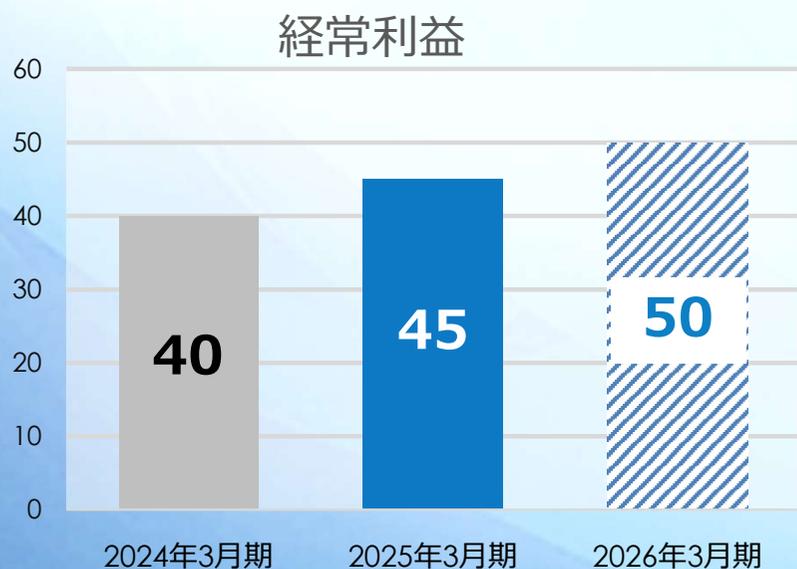
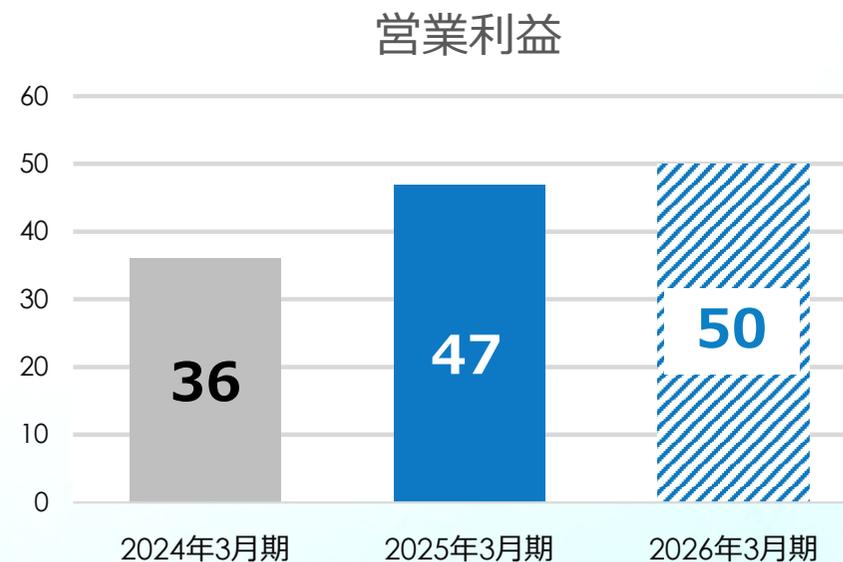
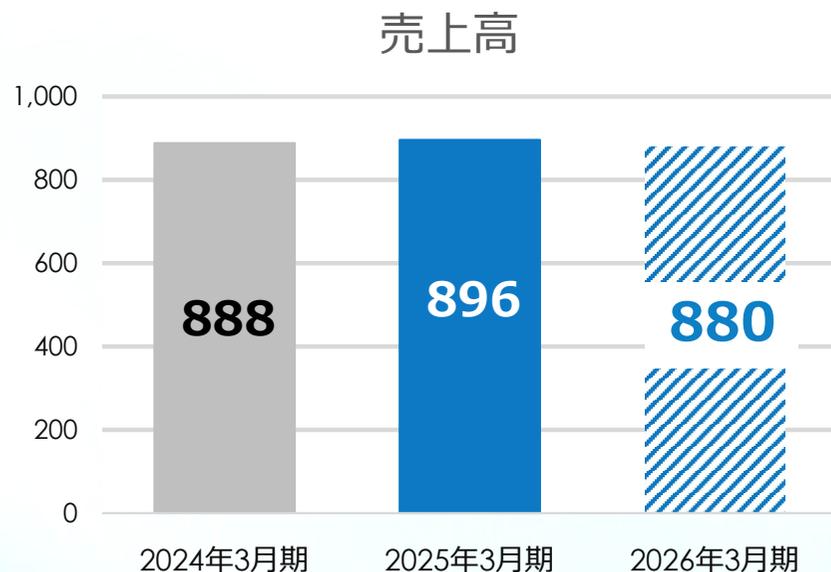
当期純利益



2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

通期業績予想推移

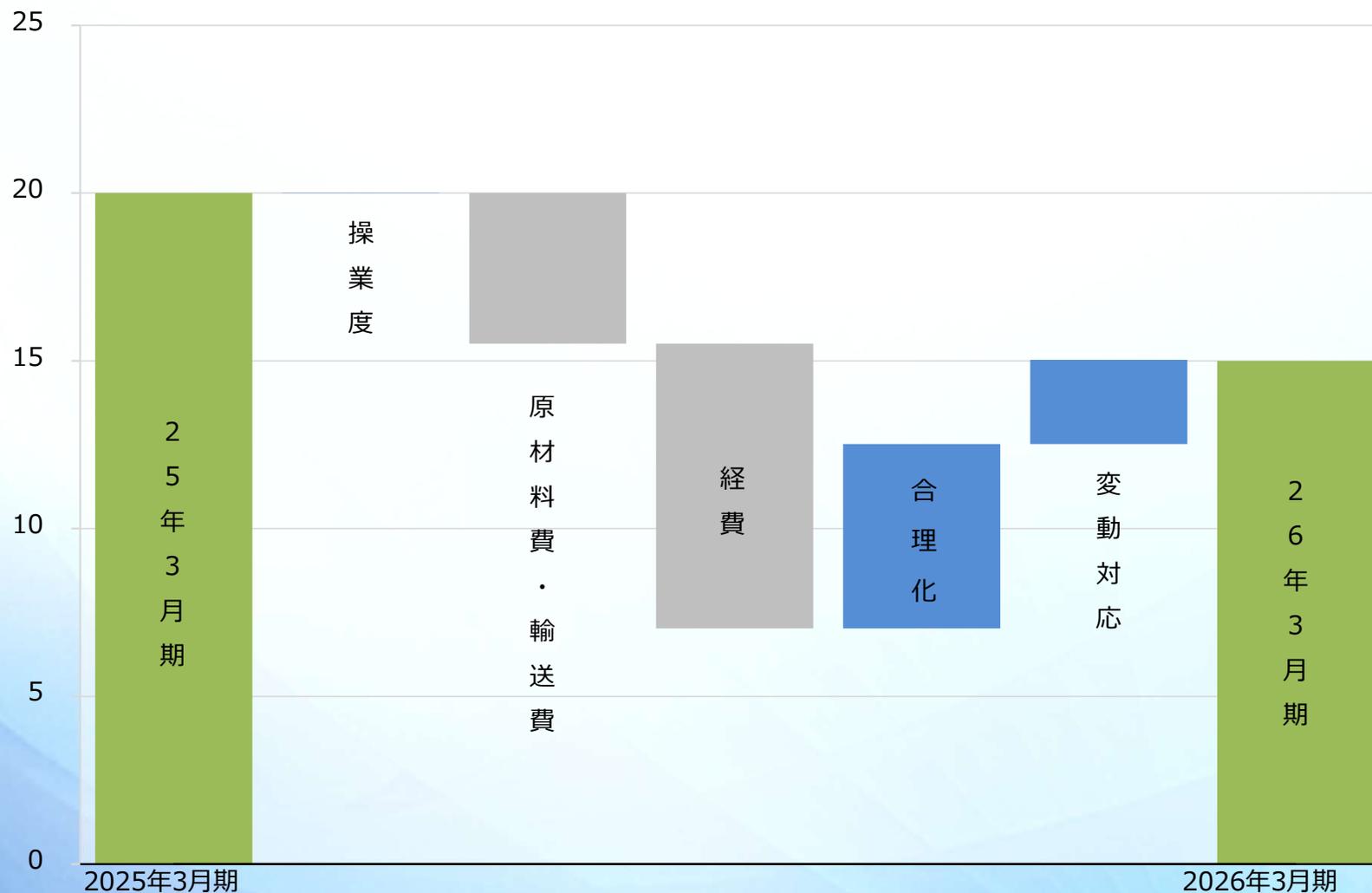
(単位：億円)



2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

第2四半期実績 差異要因 営業利益（前期比）

（単位：億円）

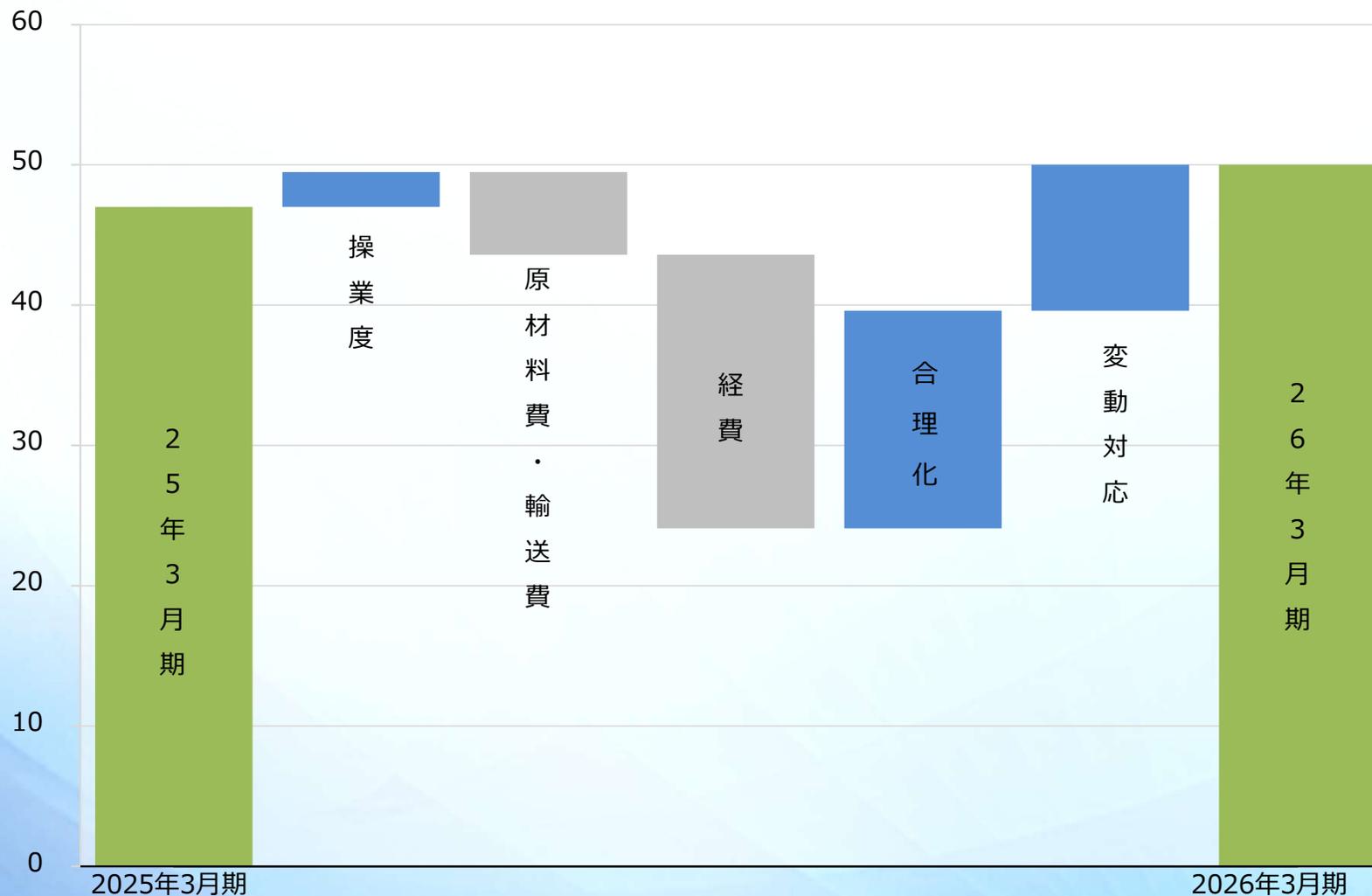


原材料高、戦略的人件費増加については、下期で挽回する

2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 通期業績予想

通期業績予想 差異要因 営業利益（前期比）

（単位：億円）



期初の計画通り、変動対応と合理化を進め下期挽回により増益

2. 2026年3月期第2四半期実績 及び 業績予想

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

（単位：百万円）

PL	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	前年増減額
売上高	44,585	44,372	△ 213
営業利益	2,060	1,549	△ 511
経常利益	2,221	1,527	△ 694
当期純利益	1,542	948	△ 594

BS	2025年3月期 実績	2025年9月期 実績	前年増減額
流動資産計	45,597	43,327	△ 2,270
固定資産計	33,804	33,101	△ 703
資産計	79,402	76,428	△ 2,974
負債計	33,465	31,821	△ 1,644
自己資本	43,274	41,976	△ 1,298
純資産計	45,936	44,607	△ 1,329
負債・純資産計	79,402	76,428	△ 2,974

CF	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	前年増減額
営業活動によるCF	2,074	3,944	1,870
投資活動によるCF	△ 3,356	△ 2,964	392
財務活動によるCF	89	△ 1,557	△ 1,646
フリー・キャッシュ・フロー	△ 1,281	980	2,261

- 売上高は、機能品事業、ライフサイエンス事業、ホース事業は堅調に推移
- 金属加工事業においては、採算性向上に向けた事業の選択と集中を進行中

- 資産の減少は、設備投資と借入金
の返済により現金及び預金の減少による
- 負債の減少は、借入金の減少による
- 純資産の減少は、為替換算調整勘定の減少による

- 財務活動によるCFの減少は、借入金の返済が先行していることによる一時的なもの

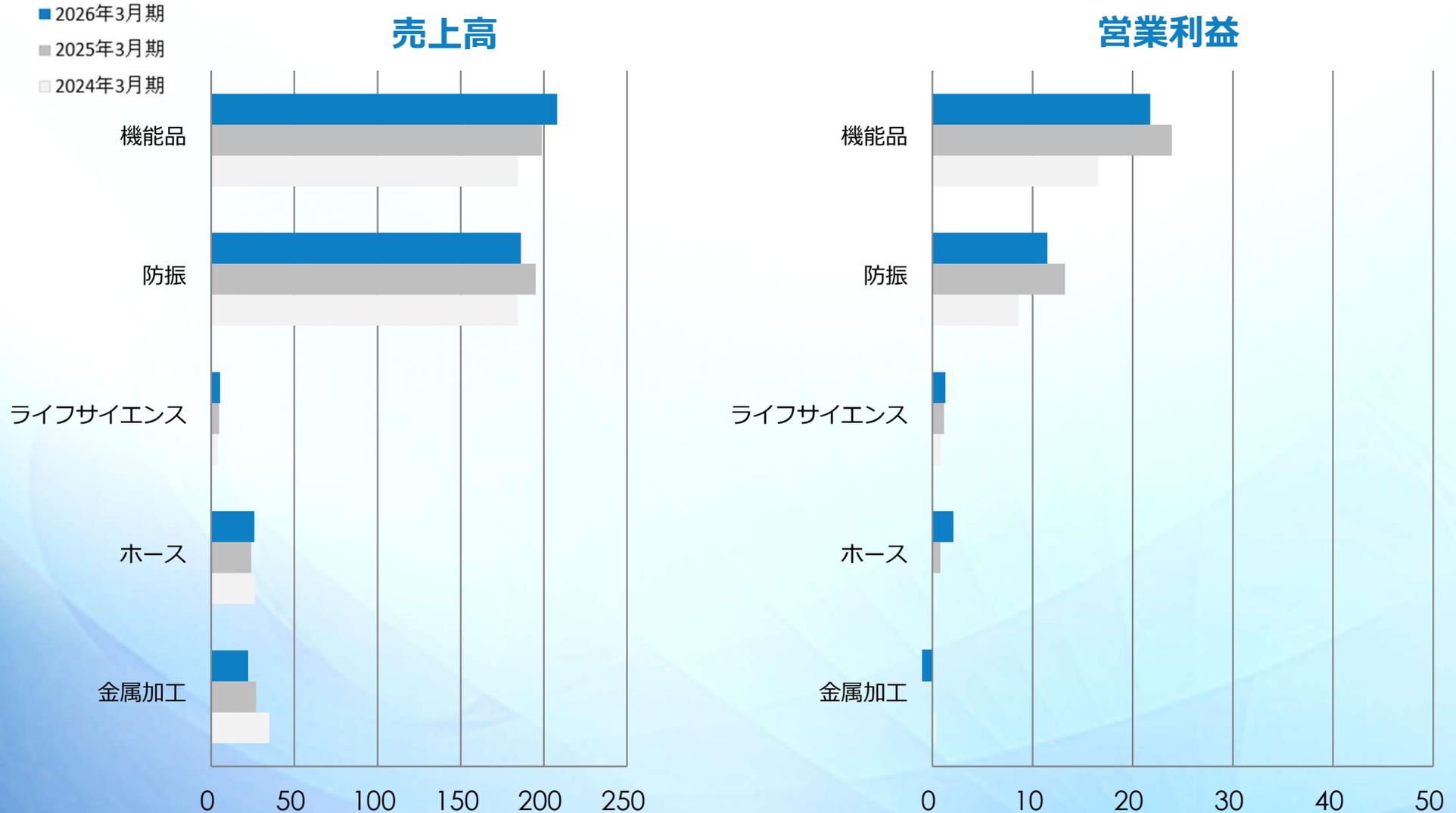
3. セグメント別・地域別の状況

3. セグメント別・地域別の状況

セグメント別（上期）

（単位：億円）

※ 連結調整考慮前



機能品・防振・金属加工は減益、ホース、ライフサイエンスは堅調に推移し増益

3. セグメント別・地域別の状況

地域別（上期）

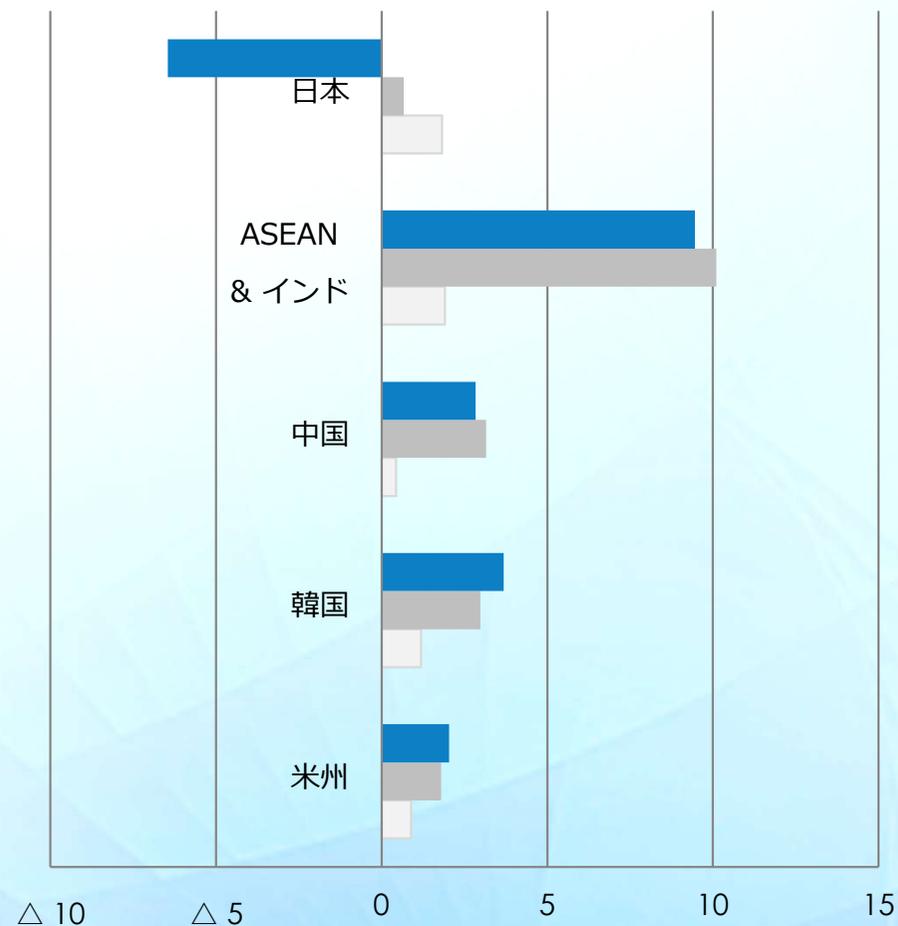
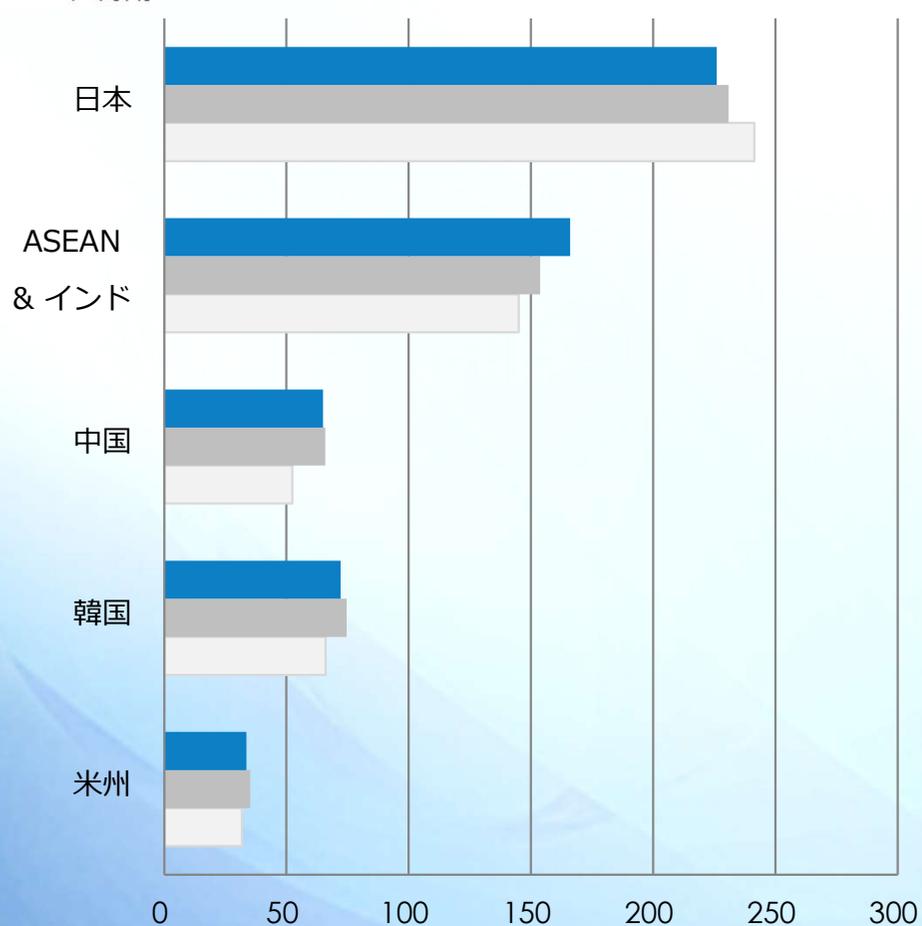
（単位：億円）

※ 連結調整考慮前

- 2026年3月期
- 2025年3月期
- 2024年3月期

売上高

営業利益



日本は人件費増や採算性向上のための事業再編の影響、海外においては前年並みを維持

4. 資本政策への取り組み

4. 資本政策への取り組み

資本コストを意識した経営

- ROE（自己資本当期純利益率）が資本コスト（8%程度）を継続的に上回ることを経営の基本方針

株価に対する考え方

- 東京証券取引所のPBR改善に向けた取組を踏まえ、早期に1倍を超過する株価を目指す



資本コストと株価を意識し、ROEとPBRの改善を意識した経営に取り組む

4. 資本政策への取り組み

配当

- 配当方針：連結配当性向30%を目安とし、1株当たり年間20円を下限
- 今期の配当金は前年より10円増配し85円を予定（上期・下期各42.5円）

自己株式の取得

- 創業家関係者からの自己株式の取得を実施。<2025年11月5日開示>

配当

85円

2026年3月期（予定）

自己株式取得

200万株

発行済株式総数（自己株式を除く）
に対する割合**12.99%**

総還元性向

130%

2026年3月期（見込）



持続的な企業価値の向上を図り、株主還元の充実に努めていく

5. 新中期経営計画2026の進捗

5. 新中期経営計画2026の進捗

中計策定時からの環境変化

2023年時点からの変化

不安定な国際情勢の継続

米国関税措置

物価高・原材料費高

為替変動

BEV (Battery EV) 化の減速



対策

合理化・変動対応の推進

北米市場での取組強化

為替ヘッジ推進



内燃機関車需要が高い地域における既存部品拡販継続

電動化部品開発・新規事業開発も引き続き推進

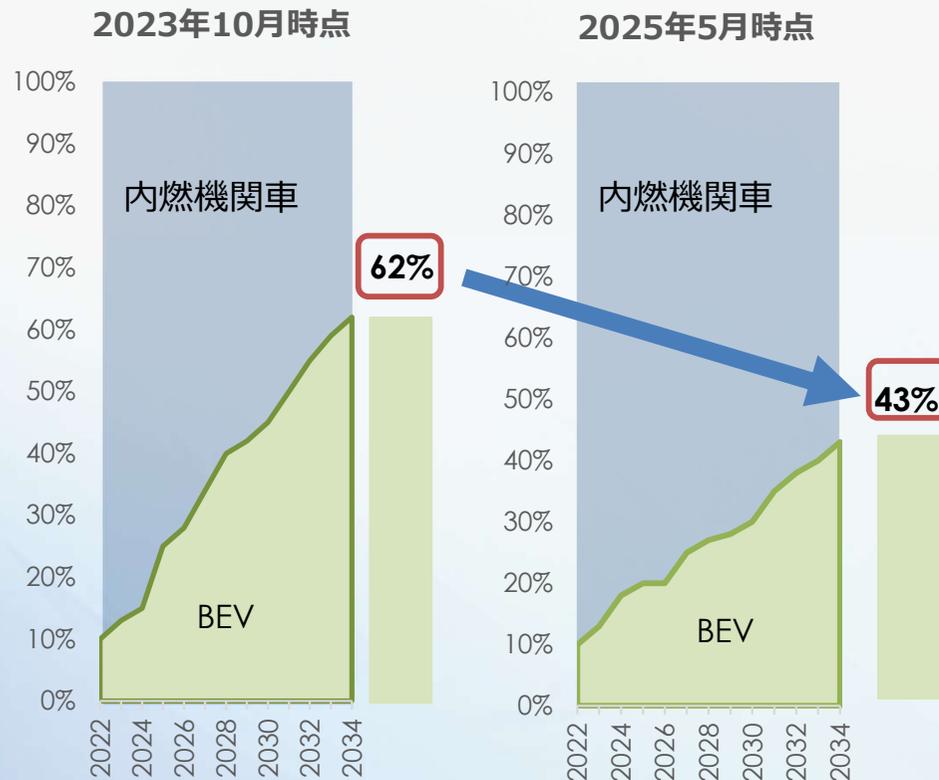
世界的な環境変動を先読みし、柔軟に対応

5. 新中期経営計画2026の進捗

中計策定時からの環境変化

電動化の減速

世界の電動化成長速度予測の変化



出典：HIS/SAP global

- ・ 約1年半の間にBEV化の成長速度見込みが減速
- ・ 中長期な成長路線は維持の見通し、関連製品の開発は着実に進める
- ・ 反面、地域によっては、内燃機関部品は当面需要継続と見込み、確実に対応していく

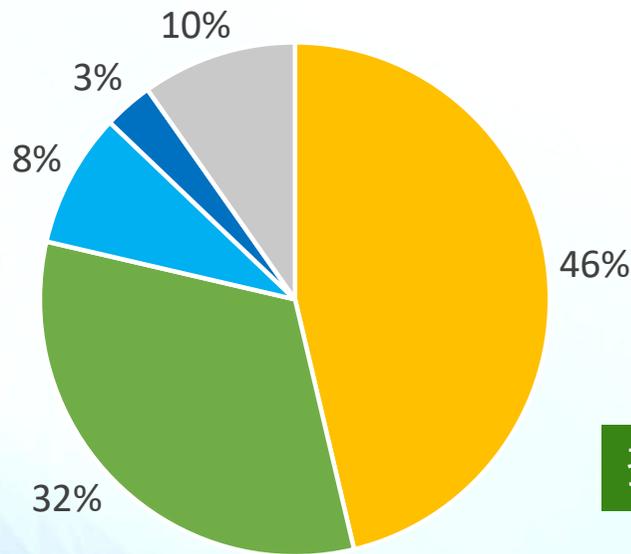
電動化シフトの動向を把握し、地域差にも柔軟に対応

5. 新中期経営計画2026の進捗

中計策定時からの環境変化

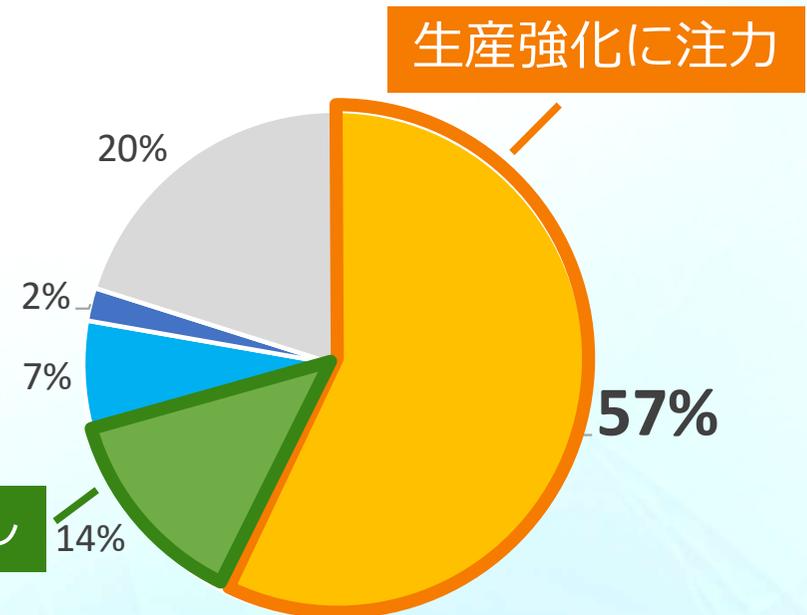
2026年3月期上期時点設備投資

- 生産強化
- 新規創出
- 研究開発
- 環境関連
- その他



中計2024 ▶ 2026年度
総額210億円

投資時期見直し



2024 ▶ 2025年度上期
総額91億円

生産強化に注力

新中期経営計画**210億円**に対して2026年3月期上期時点で実績**91億円**の投資。BEV化停滞などの環境変化により新規創出への投資時期を見直し、収益力を確実に上げて稼ぐ力をつけるため、合理化を主軸とした生産強化に注力。

※2026年3月期上期までに約2.8億円のDX投資

5. 新中期経営計画2026の進捗

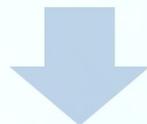
既存事業の強化 – ソリューションビジネスによる拡販

ソリューションビジネス力の強化

設計・開発段階から顧客に寄り添い、開発期間を大幅短縮



- ・ 上海テクニカルセンターの機能強化・活用範囲の拡大、評価設備の拡充

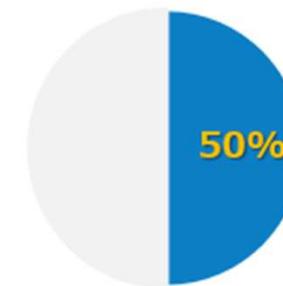


- ・ 中資系ワイパーシステムメーカーの拡販推進、受注車種の増加
- ・ 中資系企業に対し、新規開拓と並行して、ワイパー以外の既存製品も積極展開

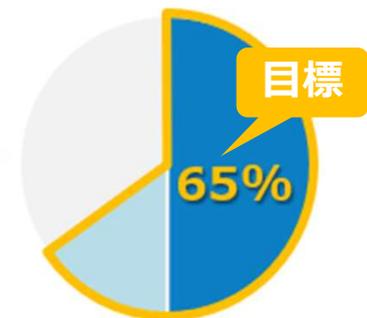


ワイパーOEMグローバルシェア

2024年度



2030年度



ソリューションビジネスで中資系企業に拡販、2030年にワイパー世界シェア65%を目指す

5. 新中期経営計画2026の進捗

既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（インド）



**R&D
強化**

テクニカルセンターの
設備拡充

**拡販
推進**

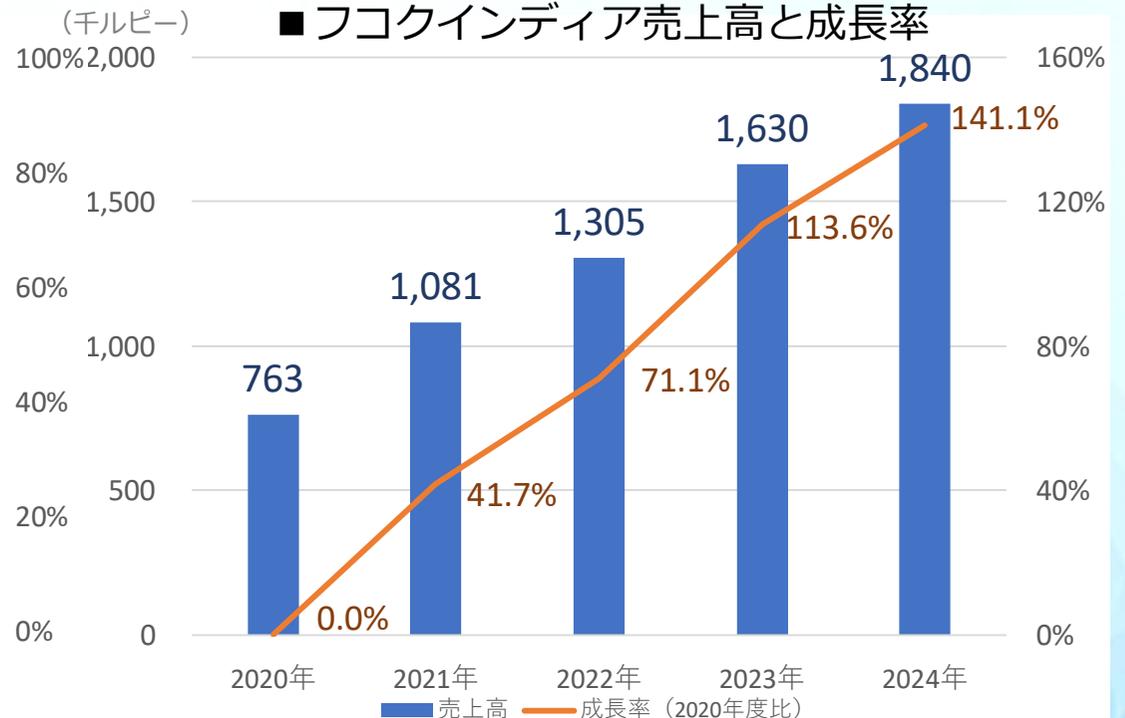
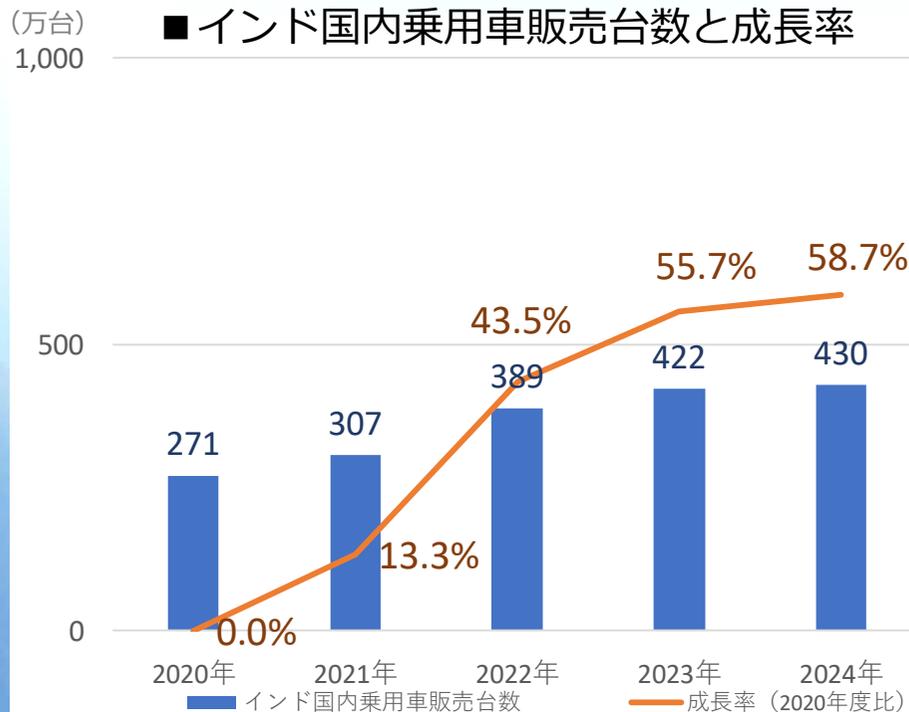
インド防振ゴムメーカーと
業務提携

**顧客
開拓**

グルگرام営業所
開設

**価格
競争力
強化**

鋳物工場本格稼働



インドのICE需要に確実に対応し、市場成長を大きく上回る成長を持続

既存事業の強化 – 日本の実績をASEANへ拡大

参入障壁の高い鉄道関連部品

高い安全性が求められる鉄道部品は、新規参入が難しい製品。
補修部品用としても一定の受注があり、日本では一般車両から新幹線、リニアモーターまで幅広く受注。
中国鉄道においても実績がある。

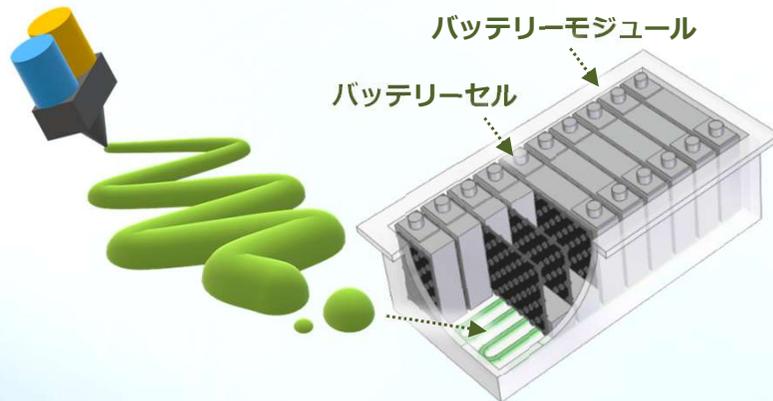


日本・中国での実績を強みに
ASEANエリアの拡販を強化

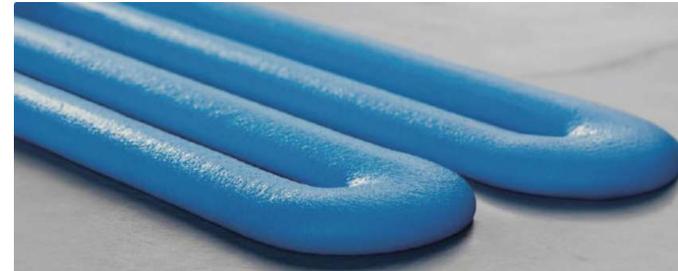
5. 新中期経営計画2026の進捗

成長事業・新事業の拡大 - バッテリー周辺製品

放熱ギャップフィラー



熱を効率的に逃がし、バッテリーの性能向上に貢献



韓国で現代自動車・起亜のSUVに採用
車種拡大に向けて拡販推進中



起亜 小型SUV「EV3」
現代 SUV「Casper」に採用



現代自動車より
優秀サプライヤー賞受賞

5. 新中期経営計画2026の進捗

成長事業・新事業の拡大 - ライフサイエンス製品

細胞培養バッグ・培地

中国で拡販活動を開始

培地開発力を強化し、細胞別培地を拡大

- ・リンパ球用培地、間葉系幹細胞培地

バッグ用途を拡大

- ・細胞凍結保存バッグ: 極低温下(-196度)での耐衝撃性に優れ、細胞の凍結保存を実現
- ・排液バッグ: 医療用途で採用決定(2025年度上市予定)



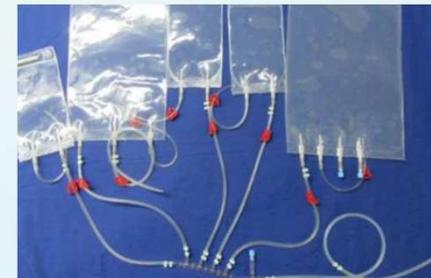
細胞凍結保存バッグ



細胞培養バッグ・培地

アカデミアとの共同研究推進

- ・金沢医科大学の研究
「実臨床に向けた開発研究：変形性膝関節症」でフコク製品の活用(SphereRing®、間葉系幹細胞培地)論文も出稿済み
- ・東京大学医科学研究所との共同研究案件において遺伝子治療用「システムバッグ」を開発



システムバッグ



SphereRing®
(スフェアリング)

5. 新中期経営計画2026の進捗

経営基盤・組織体制強化

事業創造室

- ・ 成長事業・新事業の拡大
- ・ 既存事業の付加価値向上
- ・ 事業化の推進、
- ・ 新たな業界・分野を開拓

PCH (PHIコミュニケーションハブ)

- ・ 当社技術を顧客に発信



事業統括担当取締役

- ・ 各セグメントを有機的に連携
- ・ 既存事業を総合的に強化

CFO (Chief Financial Officer)

- ・ 経営戦略を推進
- ・ 収益力の最大化を図る

CTO (Chief Technology Officer)

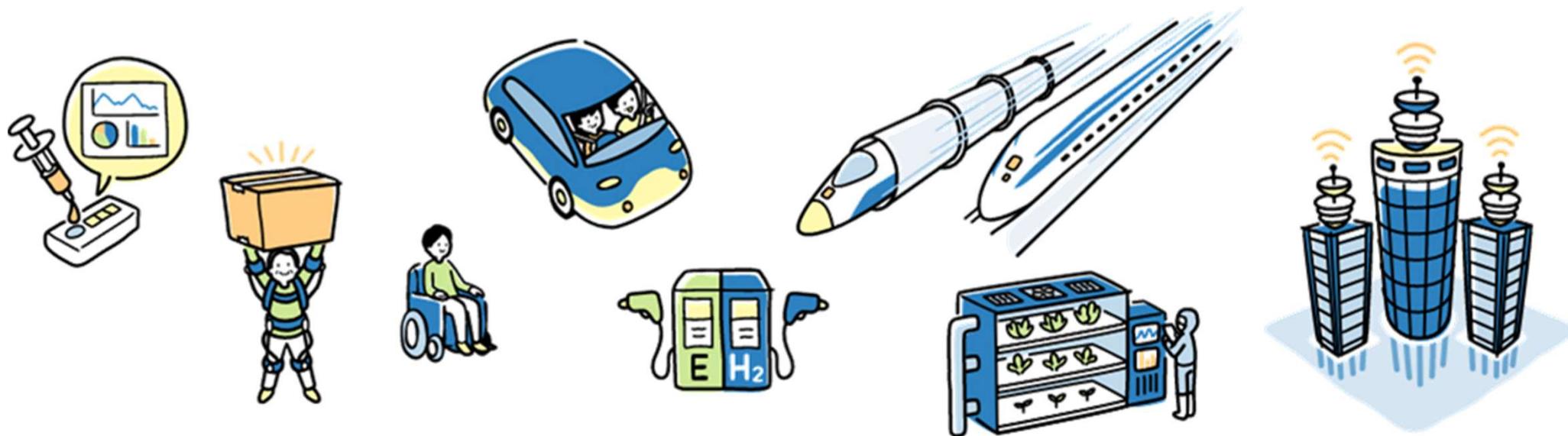
- ・ 強みの技術力を強化、活用
- ・ 既存事業の強化、成長事業・新事業の拡大を実現





Φ FUKOKU

あらゆる願いを、感動に変える。





Yes, We Do!

注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

2025年11月18日 株式会社フコク

Appendix

1. 研究開発費、設備投資、減価償却費

研究開発費、設備投資、減価償却費

(単位：億円)

